日本応用心理学会第65回大会第1日に、運営委員会および総会が開かれ、常任運営委員会提出の原案は一部の追加を加えて、運営委員会において承認された。また、引き続き行われた総会では、運営委員会承認事項がすべて承認された。

日本応用心理学会 1998 年度運営委員会

日 時：1998 年 9 月 5 日（土） 11:15～12:15

場 所：龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

1. 開会
2. 会長挨拶 田中昌人龍谷大学教授
3. 議長選出 事務局長推薦により田中会長を選任。
4. 報告事項

1) 事業報告

- (1) 会員の異動および会費の納入状況について（荻野事務局長）
- (2) 機関誌編集委員会報告（垣本委員長）
- (3) 認定「応用心理士」認定審査委員会報告（岡村委員長）

常任運営委員会において、日本応用心理学会認定「応用心理士」認定審査委員会会則の第3条2項の変更を決定したことについて報告し了承された。

変更点：任期は 2 年 とし、再任は妨げない。ただし、原則として 6 年 を超えてはならない。下線部分が改訂部分。

- (4) 学会賞・奨励賞選考委員会報告（正田委員長）
 - (5) 学会史編集委員会報告（村井委員長）
 - (6) 平成 10 年度公開シンポジウム開催について（平野委員）
- 2) 1997 年度（第 64 回）大会報告（中村第 64 回大会準備委員長）
 - 3) 日本心理学諸学会間連絡会について（稲毛委員）
 - 4) 心理学界協議会について（荻野事務局長）
 - 5) 次期運営委員および監査委員について（荻野事務局長）

運営委員、監査委員の任期満了に伴う委員の交代について報告し、了承された。

・新運営委員

- ① 久東光代氏（日本女子大）、② 山本恵一氏

（東京国際大）、③ 川辺謙氏（法務省）、④ 桐生正幸氏（山形県警）、⑤ 上野轟氏（大阪教育大）、⑥ 渡辺昭一氏（科警研）、⑦ 田中昌人氏（龍谷大学）、⑧ 神田久男氏（立教大学）、⑨ 田之内厚三氏（麻布大学）

・新監査委員

山本寛氏（千葉商科大学）

5. 審議事項

1) 1997 年度決算について

荻野事務局長、岡村認定応用心理士事務局長による説明と、玉井監査委員による報告がなされ、承認された。

2) 1998 年度予算について

荻野事務局長、岡村認定応用心理士事務局長による説明がなされ承認された。

3) 名誉会員推薦について

菊池哲彦、宮本美沙子両氏の推薦を承認。

4) 2000 年度（第 67 回）大会開催校について

神戸親和女子大学に依頼することを承認。

6. 平成 11 年度（第 66 回）大会開催校挨拶（稲毛教子副会長）

7. 平成 12 年度（第 67 回）大会開催校挨拶（坂野登親和女子大学教授）

8. 閉会

日本応用心理学会 1998 年度総会

日 時：1998 年 9 月 5 日（土） 12:15～13:10

場 所：龍谷大学大宮学舎西翼 2 階大会議室

1. 開会
2. 会長挨拶 田中昌人龍谷大学教授
3. 議長選出 事務局長推薦により田中会長を選任。
4. 報告事項

1) 事業報告

(1) 会員の異動および会費の納入状況について（荻野事務局長）

(2) 機関誌編集委員会報告（垣本委員長）

(3) 認定「応用心理士」認定審査委員会報告（岡村委員長）

(4) 学会賞・奨励賞選考委員会報告（正田委員長）

(5) 学会史編集委員会報告（村井委員長）

- (6) 平成10年度公開シンポジウム開催について(平野委員)
- 2) 1997年度(第64回)大会報告(中村第64回大会準備委員長)
- 3) 日本心理学諸学会間連絡会について(稲毛委員)
- 4) 日本心理学界協議会について(荻野事務局長)
- 5) 次期運営委員および監査委員について(荻野事務局長)
5. 審議事項
- 1) 1997年度決算について 承認
- 2) 1998年予算について 承認
- 3) 名誉会員推薦について 承認
- 4) 2000年度(第67回)大会開催校について 承認

6. 学会賞・奨励賞授与
学会賞 松浦常夫氏, 奨励賞 藤森立男・藤森和
美氏に賞状と賞金が授与された。
7. 1999年度(第66回)大会開催校挨拶(稲毛副
会長)
8. 2000年度(第67回)大会開催校挨拶(坂野親
和女子大学教授)
9. 閉会

第64回大会決算報告書 別掲
1997年度決算書 別掲
1998年度予算書 別掲

日本応用心理学会第64回大会決算報告書

1997年8月30・31日
於：駒澤大学

収 入			支 出		
摘 要		金 額	摘 要		金 額
大会参加費		1,356,500	印刷費		1,202,247
(内訳) 正会員予約分	5,000×169	845,000	(内訳) 論文集		519,750
正会員当日分	5,500× 63	346,500	プログラム・ポスター		399,525
臨時会員	6,000× 21	126,000	封筒, 1号・3号通信, 案内文, 振込用紙, 原稿用紙, コピー代, 等		282,972
学生会員予約分	1,000× 18	18,000	通信費		415,000
学生会員当日分	1,000× 21	21,000	(内訳) 論文集郵送		75,530
論文集代金		1,281,000	プログラム郵送		216,390
(内訳) 予約分	5,000×205	1,025,000	1号通信		66,640
当日分(個人)	5,500× 40	220,000	その他		56,440
(機関)	6,000× 2	12,000	日本学会事務センター		583,598
後日分(機関)	6,000× 4	24,000	(内訳) 業務委託費		315,000
写真掲載料	500× 2	1,000	事務諸経費		209,578
プログラム代金	500× 3	1,500	事務雑費		59,020
懇親会費		275,500	交通費		120,000
(内訳) 予約分	5,000× 33	165,000	人件費(アルバイト)		503,000
当日分正会員	5,500× 19	104,500	文具・消耗品・会場備品		234,362
学生会員	3,000× 2	6,000	懇親会費		939,513
広告・展示料		475,000	記念品代		40,000
賛助・協賛金		720,000	シンポジスト・講師謝礼		300,000
学会本部より補助金		600,000	写真費		31,262
駒澤大学より補助金		170,000	大会運営費		361,250
雑収入(利息)		354	準備委員会会合費		143,322
			過入金返金		6,000
			送金手数料		1,300
合 計		4,880,854	合 計		4,880,854

1997年度決算書

収 入			支 出		
項 目	実行額	予算額	項 目	実行額	予算額
会 費	5,446,500	4,420,000	第 64 回 大 会 補 助 費	100,000	600,000
過 年 度 分	700,500	100,000	公 開 シ ン ポ ジ ヴ ム 費	167,751	200,000
本 年 度 分	4,746,000	4,320,000			
賛 助 会 費	50,000	50,000	印 刷 費	1,883,490	4,200,000
			機 関 誌 2 号 分	1,581,300	2,400,000
			学 会 史	0	1,500,000
「応用心理士」関係	1,250,000	1,800,000	そ の 他 (学・奨賞他)	302,190	300,000
積立金取崩	900,000	1,400,000	通 信 費	290,625	650,000
学会賞・奨励賞積立金	400,000	400,000	機 関 誌 郵 送 費	140,225	200,000
学会史刊行積立金	500,000	1,000,000	学 会 史 郵 送 費	0	100,000
雑 収 入	139,782	300,000	ミ ニ 通 信 郵 送 費	76,480	200,000
			そ の 他	73,920	150,000
			機 関 誌 編 集 費	117,730	200,000
			学 会 史 編 集 費	440,000	500,000
			サイコロジスト郵送費	67,435	50,000
			諸学会間連絡会会費	10,000	10,000
			「応用心理士」関係費	1,157,167	1,250,000
			学会賞・奨励賞関係経費	89,300	120,000
			交 通 費	376,940	500,000
			事 務 局 費	537,318	500,000
			ア ル バ イ ト 費	1,153,630	1,000,000
			予 備 費		306,214
小 計	7,786,282	7,970,000	小 計	6,391,386	10,086,214
前年度繰越金総額	3,426,526	2,926,526	次年度繰越金総額	4,821,422	810,312
名簿作成積立金	410,312	410,312	名簿作成積立金	810,312	810,312
学会史刊行積立金	500,000	0	学会史刊行積立金	500,000	0
前年度純繰越金	2,516,214	2,516,214	次年度純繰越金	3,511,110	0
合 計	11,212,808	10,896,526	合 計	11,212,808	10,896,526

以上の通り相違ありません。

1998年6月26日

監査委員 玉 井 寛 ㊤

監査委員 田之内 厚 三 ㊤

1998年度予算書

収 入			支 出		
項 目	予算額	前年度決算額	項 目	予算額	前年度決算額
会 費	5,040,000	5,446,500	第 65 回 大 会 補 助 費	600,000	100,000
過 年 度 分	240,000	700,500	公 開 シ ン ポ ジ ウ ム 費	250,000	167,751
本 年 度 分	4,800,000	4,746,000	印 刷 費	5,090,000	1,883,490
賛助会費	50,000	50,000	機 関 誌 2 号 分	2,100,000	1,581,300
「応用心理士」関係	1,220,000	1,250,000	学 会 史	1,700,000	0
積立金取崩	1,310,312	900,000	名 簿 印 刷 費	950,000	0
学会史刊行積立金	500,000	500,000	そ の 他	340,000	302,190
学会賞・奨励賞積立金	0	400,000	通 信 費	900,000	290,625
名簿作成積立金	810,312	0	機 関 誌 郵 送 費	200,000	140,225
雑 収 入	100,000	139,782	学 会 史 郵 送 費	100,000	0
			ミ ニ 通 信 郵 送 費	100,000	76,480
			名 簿 関 係 郵 送 費	350,000	0
			そ の 他	150,000	73,920
			機 関 誌 編 集 費	250,000	117,730
			学 会 史 編 集 費	250,000	440,000
			サイコロジスト郵送費	50,000	67,435
			諸学会間連絡会会費	10,000	10,000
			「応用心理士」関係費	620,000	1,157,167
			学会賞・奨励賞関係経費	120,000	89,300
			交 通 費	500,000	376,940
			事 務 局 費	750,000	537,318
			ア ル バ イ ト 費	1,350,000	1,153,630
			予 備 費	291,422	0
小 計	7,720,312	7,786,282	小 計	11,031,422	6,391,386
前年度繰越金総額	3,511,110	3,426,526	次年度繰越金総額	200,000	4,821,422
名簿作成積立金	0	410,312	名簿作成積立金	200,000	810,312
学会史刊行積立金	0	500,000	学会史刊行積立金	0	500,000
前年度純繰越金	3,511,110	2,516,214	次年度純繰越金	0	3,511,110
合 計	11,231,422	11,212,808	合 計	11,231,422	11,212,808

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

1998年度第1回常任運営委員会

日 時：1998年4月24日（金）18:00～20:30

場 所：富士短期大学 高田記念図書館第2会議室

出席者：田中（昌）・稲毛・内海・大久保・大島・大塚・岡村・小野・高橋・田中（富）・中村・長谷川・馬場・正田・村井
事務局（荻野・神田・岩田）

報告事項：

1. 1998年度（第65回）大会準備状況（田中大会準備委員長）

3月に1号通信を発送した。シンポジウム等の企画も進んでいる。

2. 機関紙編集委員会より（荻野）

垣本委員長の報告を伝達。24号に掲載予定の7編を査読中である。投稿規程については編集委員会で未だ審議に至っていないが速やかに検討したい。

3. 認定「応用心理士」事務局より（岡村）

前回の常任運営委員会以後申請者1名を認定した。5月中旬に認定委員会を開き今後の対応を検討したい。また、研修会を行うことについても検討したい。

4. 学会史編集委員会より（村井）

5月末頃をめどに出版したい。第65回大会で若手によるシンポジウム「応用心理学・応用心理学会に期待するもの」を計画しているが、学会史の補遺を出す場合はシンポジウムについても掲載したい。

5. 事務局より（荻野）

1998年度年間予定と新会員名簿の発行の進め方について説明がなされた。

審議事項：

1. 応用心理士認定審査委員会の任期延長について
岡村委員長より、応用心理士認定審査委員会規則によると、現委員の任期は1995年6月より1998年5月までであるが、他の委員会の任期がすべて9月までとなっているので、改選時期を合わせるために4カ月延長し9月までとすることが提案され承認された。

また、同規則では、任期3年（6年を越えてはならない）となっているが、やはり他の委員会に

合わせ、任期2年（但し、3期を超えてはならない）とする改則案が示され、以後の会議において改めて審議を行うこととなった。

2. 認定「応用心理士」1997年度決算、1998年度予算について

岡村認定審査委員長より1997年度決算および1998年度予算案が提出されともに承認された。

3. 大会発表論文集のデータベース化許諾料の扱いについて

大会論文集のデータベース化許諾料30,000円弱の収入は大会主催校に帰属するという申し合わせになっていたが、本年度は大会決算後に振り込まれたため、駒澤大学の意向で学会事務局の収入とした。本来学会の収入とすべきであるという意見もあり、今後、事務局収入としていくことが荻野事務局長より提案され承認された。

4. 新入会員審査

前回の審査において保留となった申請者は事務局局長が直接電話で審査状況を伝えたところ本人が取り下げを希望したため、申請取り消しとすることを承認。新規申込者19名（内学生会員2名）の入会と前回保留の他の1名については有資格者と判断し、合計20名の入会が承認された。

1998年度第2回常任運営委員会

日 時：1998年6月5日（金）18:00～20:30

場 所：富士短期大学 高田記念図書館第2会議室

出席者：田中（昌）・内海・大塚・岡村・小野・高橋・中村・長谷川・平野・福原・正田
事務局（荻野、岩田、藤瀬）

報告事項：

1. 1998年度（第65回）大会について（田中大会準備委員長）

現段階で発表申し込み数が100件を越えた。シンポジウムを4つ開催する予定。

今月中に第2号通信を発送の予定。

2. 認定「応用心理士」事務局（岡村）

名簿に応用心理士であることを記載することも考えている。

申し込みの締め切りを6月の下旬と10月の下旬の年2回とし、それぞれ9月と2月に認定証を交付することとした。

パンフレットを作り配布すること、ニューズレ

ター3号が7月にできあがるので、可能であれば大会プログラムとともに郵送することを考えている。

応用心理士の講習会も検討する必要がある。

3. 学会史編集委員会 (荻野)

作業が遅れており発行時期を特定することができないという村井委員長の報告を伝達。

4. 心理学諸学会間連絡会 (荻野)

連絡会からのアンケートに回答するため、アンケートのコピーを常任運営委員に郵送し、その回答を集約して、以下のような内容の回答をした。

本学会では、連絡会の存続に関し、心理学界協議会が心理学の学会全体をカバーしていくことができるかということ、これまで連絡会が行ってきたことを協議会が代わって行っていくことができるか、というこの2点について疑念があり、これらの問題についての見通し、解決が得られるならば、連絡会を廃止し、協議会にその役割を移行してもよいと考える。

またサイコロジストについては37号を持って終了とし、インターネット等を利用して行うことがよい。

連絡会の際の採決権を各学会の連絡員に与えることに関しては異論がない。

5. 会員の異動 (荻野)

名誉会員の西部徹一先生、行田忠雄先生が昨年亡くなられた。

住所不明者20名を1997年度末で退会措置とした。

入会希望者で資格審査を通った3名について、年会費の納入がないため、審査結果を無効とした。

長期会費未納者32名(1994年度以降未納)を1997年度末で退会措置とした。

6. 学会賞・奨励賞について (正田)

現在の状況、学会賞候補8名、奨励賞候補6名の推薦があった。

審議事項：

1. 名誉会員の推薦について

菊池哲彦先生、宮本美沙子先生を名誉会員として推薦することとなった。

2. 1997年度決算について

荻野事務局長より決算書の説明がなされ、以下の点を修正の上、会計監査をうけることが承認された。修正箇所 1998年3月末現在、学会史積立金500,000円、名簿積立金810,312円を明示する。

次回これらの訂正をした資料を提出する。

3. 1998年度予算(案)について (荻野事務局長)

荻野事務局長より予算案の説明がなされ、承認された。

4. 応用心理士認定制度に関する規則の改正について

岡村認定「応用心理士」認定審査委員会委員長より、二つの規則の改定が提案された。

1) 日本応用心理学会認定「応用心理士」認定制度規則第4条の改定について

従来は「入会后満2年間を経過した者で、次の各号の一つに該当し、かつ本学会会員の専門職としての資質があると認められた者について、これを行うことができる。」となっていたが、弾力的な運用を図るために「本学会会員で、次の各号の一つに該当し、かつ本学会会員の専門職の資質があると認められた者についてこれを行うことができる。」とする。この件については規則を緩やかにすることについての懸念を示す意見が出され、継続審議となった。

2) 日本応用心理学会認定「応用心理士」認定審査委員会規則第3条2項の改定について

委員の任期は「3年とし、再任を妨げない。ただし、6年を超えてはならない」となっているが、他の委員の任期と同じ「2年」とし、さらに、再任については、「原則として6年を超えてはならない」とする案が提出され承認された。

5. 2000年度第67回大会開催校について

2000年度67回大会開催校の候補校の推薦がなく、継続審議となった。

6. 1998年度公開シンポジウムについて

公開シンポジウムのテーマ、及び企画の担当者が決まらず、継続審議となった。

7. 新入会員審査について

・正会員63名、学生会員2名の入会が承認された。

1998年度第3回常任運営委員会

日 時：1998年7月31日(金) 18:00～20:30

場 所：富士短期大学 高田記念図書館第2会議室

出席者：田中(昌)・稲毛・大久保・大島・大塚・岡村・垣本・神作・高橋・高島・田中(富)・中村・長谷川・馬場・林・平野・福原・正田

事務局 (荻野・神田・岩田・藤瀬)

報告事項：

1. 1998年度(第65回)大会について(田中大会準備委員長)
プログラム等を8月上旬に発送する予定。
2. 名誉会員推薦について(荻野)
宮本先生と菊池先生から名誉会員推薦の件についてご承諾いただいた。
3. 機関誌編集委員会より(垣本)
第24号を編集集中。原著1編、資料2編を掲載予定。このほかシンポジウムの原稿の提出があれば、近日中に印刷へ回す。現在査読中の原稿は5編。これらは25号に掲載の予定である。
4. 認定「応用心理士」事務局より(岡村)
ニュースレターNo.3ができた。3月現在の認定者は121名、さらに2名を認定した。
5. 学会史編集委員会より(荻野)
村井委員長の報告を伝達。学会史は200ページ程度の見込み。印刷は第65回大会に間に合う予定である。印刷部数については、予算の枠内で可能な限り印刷(1400冊程度)し、会員だけでなく心理学関係のある大学や図書館関係にも配布する。
6. 心理学諸学会間連絡会報告(林委員)
サイコロジストの刊行は次号で終了と決まった。サイコロジストというホームページを作成することになった。連絡会存続については、本年度中に判断する。
7. 心理学界協議会について(田中)
協議会より学会のあり方、資格関連のプログラム等の検討、資格検討の各委員会の中間報告を受けた。
8. その他(荻野)
名誉会員の鬼沢貞先生が7月12日に逝去された。

審議事項：

1. 2000年(第67回)大会開催校について
田中会長の推薦により、神戸親和女子大学に依頼することが提案され承認された。
2. 予算、決算について
事務局長荻野より、前回、決算の書式について、積立金の払い戻しの扱いが不明確という指摘がなされたので、他の学会の様式を参考に、これまでとは異なる様式に変更した旨の説明があり、これについて了承された。
予算案について修正案が出された。次年度への

繰り越し金の計上が提案されたが、予算の段階から次年度への繰り越しがあるのはおかしいという指摘がなされ、この変更は撤回された。なお、予備費29万円余とすること、機関誌出版費から会員名簿作成費へ20万円をまわすこと、学会史出版費を150万円から170万円とする等の修正を加え、予算案は承認された。

3. 会計監査1名の補充について

田之内監査委員が2期務められたのに伴い、委員の交代が事務局長より提案され、岡村委員の推薦で千葉商科大学の山本寛氏が候補となり、承認された。

4. 運営委員会について

事務局長より、欠員による運営委員8名の補充が必要となったことが説明され、各委員から次の8氏が候補として推薦され承認された。

- ①久東光代氏(日本女子大)、②山本恵一氏(東京国際大)、③川辺譲氏(法務省)、④桐生正幸氏(山形県警)、⑤上野轟氏(大阪教育大)、⑥渡辺昭一氏(科警研)、⑦田中昌人氏(龍谷大学)、⑧神田久男氏(立教大学)

大会時の運営委員会の運営については、案内状の送付を運営委員のみとし、名誉会員へは名誉会員室への案内状を送ることが提案され承認された。

5. 常任運営委員会について

事務局長より、常任運営委員改選の開票の立会人を稲毛会長と高橋前事務局長に依頼することが提案され承認された。

また、常任運営委員が名誉会員となった場合に、その後継続的に常任運営委員会への出席を求めてきたが、どのように対応するのが適切かという事務局長の質問に対し、本人の意志を確認の上、出席を求めていくことが確認された。

6. 公開シンポジウムについて

本年度の公開シンポジウムは、平野委員を推進者とし、「発達環境(自然、家族、教育)」「環境問題」「幼少期における発達環境の諸問題」などを統合した形で進めることが承認された。

7. 新名簿作成のための問い合わせについて

事務局長より、他学会への加入状況を各会員に問い合わせたいとの提案がなされたが、調査目的が不明確である等の問題が指摘されたため、提案は撤回された。

8. 認定「応用心理士」認定審査委員会提案について
岡村委員長より、前回継続審議となった、認定制度規則第4条の改定については取り下げたいという申し出であり承認された。

認定審査委員会規則第3条2項の任期の改定については承認が確認された。

9. 学会賞・奨励賞第2次選考について
正田選考委員会委員長の提案通り承認された。
・学会賞 松浦常夫氏
・奨励賞 藤森立男・藤森和美氏(共同研究)

10. 新入会員審査

6月追加分9名(前回、委員長と事務局長一任)と今回の申請者3名のうち2名の入会が承認され、1名は資格要件にみだず不承認となった。

1998年度第4回 常任運営委員会

日 時：1998年10月30日(金) 18:00～20:30

場 所：東京国際大学 国際交流研究所

出席者：稲毛・浮谷・内海・大久保・大塚・岡村・垣本・神作・越河・高橋・田中(富)・田中(昌)・長塚・馬場・林・福原・正田・村井・藤田

事務局(荻野・神田・岩田)

報告事項：

1. 常任運営委員の選挙結果について(荻野)
9月29日、日本女子大において高橋前事務局長、稲毛会長の立ち会いのもとに開票を行った。
52名の運営委員による投票があり23名を常任運営委員として選出した。
2. 1998年度(第65回)大会について(田中昌人)
参加者378名、発表125件であった。現在、論文集の作成等、大会後の事務処理を進めている。
3. 機関誌編集委員会より(垣本)
24号の編集が完了し、初校も終了している。24号は原著2編、資料2編及びシンポジウムを掲載。25号は新委員に引き継ぐが、すでに修正採択1編、預かり論文2編がある。
4. 認定「応用心理士」事務局より(岡村)
現在、申請者2名。10月31日が締め切りであるが、延期を検討している。
5. 心理学会協議会について(荻野)
11月で現委員の任期が切れるので、それまでに結論を出したい意向。近く協議会が開かれ、

学会代表者1名の出席が要請されるので、稲毛会長に出席していただきたい。

資格検討委員会から、本学会総会前にアンケートがきたので、岡村認定審査委員会委員長に回答を依頼した。

6. 学会史編集委員会より(荻野)

1600冊印刷。印刷費は170万円。大会当日約200名の会員に配布。他の会員には郵送。来年度、座談会を記録した補遺を出したいという村井委員長の意向を伝達。

審議事項：

1. 1999年度(第66回)大会の日程について(会長)
稲毛大会準備委員長より、1999年9月11、12日(土、日)の両日としたいとの提案がなされ承認された。
2. 新委員会の設置について
 - 1) 公開シンポジウム企画委員会の新設：事務局長より、これまで公開シンポジウムは事務局が推進の役割をになってきたが、本学会公開シンポジウムのほか、他学会からの呼びかけへの対応、委員会を設置し早めの対応を行うことで文部省からの補助金を得ることも可能、などの理由で委員会設置の提案がなされ、承認された。
 - 2) 国際交流(促進)委員会の新設：長塚委員より、学会として国際応心の本部事務局に接触していくことが応心の発展にとっても意味があるとの理由で新設の提案がなされ承認された。
これらの決定に伴い、新委員会の規程等の立案を林委員と荻野事務局長が担当することとなった。
3. 各種委員会委員の選出
各委員会委員の任期満了に伴い委員の選出が行われ以下の通りとなった。
 - ①認定「応用心理士」認定審査委員会：岡村「応用心理士」事務局長が推薦され、次回他の委員を決定する。
規則改正が行われたのを機会に、今後委員を9名に増員。今後3名ずつ交代していく意向が示され、了承された。
 - ②機関誌編集委員会：委員長を選挙によって決定。高橋委員が委員長に決定。他の委員は委員長が指名し、常任運営委員会で承認する。委員の氏名は次回。

③学会史編集委員会：村井委員長が完成まで引き続き担当する。

④学会賞・奨励賞選考委員会：前委員長正田の再任が決定、事務局長荻野と他の2名を機関誌編集委員会から選出することを承認。次回決定。

4. 1998年度公開シンポジウムについて

平野委員より、今年度のシンポジウムについて以下の通り提案され、承認された。

- ・テーマ：「子どもの発達環境おける諸問題」
- ・開催日時：1999年1月30日（土）
- ・開催場所：駒澤大学
- ・シンポジスト：柴田敏隆氏、近藤総子氏、
中村桂子氏、高橋鷹志氏
- ・指定討論者：高橋委員

5. 新入会員審査

正会員11名、学生会員1名、計12名の入会が承認された。

1998年度第5回 常任運営委員会

日 時：1998年12月18日（金）

場 所：東京国際大学 国際交流研究所

出席者：稲毛・浮谷・内海・大久保・大塚・小野・
垣本・神作・高橋・中村・馬場・林・平野
・福原

事務局（荻野・岩田・藤瀬）

報告事項：

1. 1999年度（第66回大会について）（稲毛大会準備委員長）
公開講演（小此木啓吾教授）、大会記念シンポジウム（福祉心理学に関する内容）、公開シンポジウム3つ（セクシュアルハラスメント、異文化、福祉心理学的内容）を検討している。
2. 機関誌編集委員会より（荻野）
委員長に代わり、昨日24号を発送したことを報告。
3. 1998年度公開シンポジウムについて（平野）
シンポジストに100字程度のレジメを依頼したのでそれを資料として配付する予定。
4. 心理学諸学会間連絡会報告（稲毛）
12月4日に開催され、連絡会のあり方について各学会の見解をまとめた資料が配付されたが、内容が不十分ということになり、再度まとめ直し1

月8日に各学会に配布し、それに基づいて1月22日に再度検討することとなった。

5. 心理学界協議会について（荻野）

12月26日に会議が行われる予定。議題は各検討委員会の報告の質疑応答および今後のあり方について。

6. 応用心理士認定審査委員会から（浮谷）

新委員で1月中旬過ぎに第1回の委員会を開催したい。

7. 学会名簿について（荻野）

最終学歴が文部省の認めた専門学校でない場合は、その前の短大あるいは四年制大学を最終学歴として記載したいという事務局長の提案を了承。

審議事項：

1. 各種委員会委員の選出について

各委員会委員として以下の通り承認された。

（○：委員長 *：運営委員より選出）

・認定「応用心理士」認定審査委員会

（任期2年 1998年10月～2000年9月）

岡村・浮谷・内海・大久保・大塚・大島・馬場・林・平野

・機関誌編集委員会

（任期2年 1998年10月～2000年9月）

○高橋・稲毛・小野・越河・平野・松浦*・
村井・八木*

・学会史編集委員会

（任期 1996年10月～学会史発行終了まで）

○村井

・学会賞・奨励賞選考委員会

（任期2年 1998年10月～2000年9月まで）

○正田・荻野・越河・高橋

・心理学諸学会間連絡会委員（任期2年 隔年交代）

稲毛（1997年4月～1999年3月）

林（1998年4月～2000年3月）

・心理学界協議会関係

（任期1年 1997年10月～1998年11月）

「学会のあり方」検討委員会委員 荻野

2. 新委員会の設置について

1) シンポジウム企画委員会（仮称）規程について林案を検討。継続審議となった。

2) 国際交流促進委員会（仮称）規定について林案を検討。継続審議となった。

3. 研修委員会（仮称）発足について

荻野より、認定「応用心理士」に対する研修に限らず、学会会員を対象に研修を行うための委員会の設置が提案された。これに対し、委員会の意義、研修会を行なうことのメリット、デメリット等を検討する必要があるという意見が述べられ、研修委員会企画検討委員会を設置することになった。継続審議。

4. 大会運営について

荻野事務局長より、以下の3点について検討が求められた。

1) 発表資格について

前回大会では発表資格を、「6月の時点で会員であること」とした点について、あらためて、この変更を踏襲することとなった。

2) 非学会員の連名発表について

本学会では、会員であることが発表の条件となっているが、他学会では連名発表に関しては非会員の発表を認めている点について、本学会では「正会員に限ること」が確認された。

3) 1人の発表件数について

連名発表であれば1人で何件でも発表してよいのか、また発表費の問題をどうするかについて、従来通り口頭発表は1件、連名であれば何件でも可、発表費は発表件数に関係なく1件分のみとすることが確認された。

5. 新入会員審査について

正会員1名の入会が承認された。

1998年度第6回 常任運営委員会

日 時：1999年1月30日(土) 17:00～20:00

場 所：駒澤大学 大学会館301

出席者：稲毛・坂野・内海・大島・岡村・小野・垣本・越河・福原・藤田・林・高橋
事務局(荻野・神田・岩田・藤瀬)

報告事項：

1. 1999年度大会について(稲毛大会準備委員長)
第1号通信を2月2日に発送の予定。
2. 機関誌編集委員会(高橋)
本日、委員会を開催の予定。
3. 認定「応用心理士」事務局より(岡村)
 - 1) 新委員による第1回委員会で岡村委員を委員長に選出した。
 - 2) 第14回認定審査委員会(1月21日)を開催

し、1名を審査し合格とした。今年度合計6名を認定)。

- 3) 本学会役員を対象に追加募集を行う予定(手続き簡略化を図る)。

- 4) 応用心理士が200名程度になったら、会員名簿に認定番号を記載することを検討している。

- 5) 資格取得者に対する研修を検討している。

4. 心理学会協議会について(稲毛会長)

12月26日に第6回協議会が開催され、以下の点について各委員会報告に基づき協議がもたれた。

①統一資格の必要性

②国家資格の必要性

③連絡会との関係

④協議会の今後の進め方。連合会として常置組織とする。

5. 心理学諸学会間連絡会報告(林)

1月22日に会合がもたれた。協議会が十分に機能するなら解散もよいという意見がある。3月にさらに会合を予定している。

この報告に対して「学術会議に登録されていない学会、協議会に入っていない学会への対応も考慮する必要がある」との意見が出された。

6. 事務局より

- 1) 会員名簿は3月上旬発送の予定。

- 2) 学術会議の更改申請が来月ある。

審議事項：

1. 新委員会の設置について

- 1) シンポジウム企画委員会(仮称)規程案

岡村委員から、委員と委員長の選出方法について、常任運営委員会で委員長を決めてから委員長が委員を指名し、常任運営委員会で承認を受けるようにしたらどうか、さらに他の委員会についても同様にしたらどうかとの提案がなされた。

また、小野委員から、委員には運営委員を積極的に加える方がよいとの意見が出され、これらの2点を含め、大枠承認の形となり、次回修正案を検討することとなった。

- 2) 日本応用心理学会国際交流委員会(仮称)規程案

委員長、委員の選出方法について、先のシンポジウム企画委員会と同様の扱いとするように

修正し、承認された。

なお、大島委員から、様々な委員会ができるので常任運営委員を増員した方がよいとの意見が出された。また、岡村委員から、各部局を統一したニューズレターを発行したらどうかとの意見が出され、これについては広報委員会を設置し、促進することが確認された。

- 3) 応用心理学会研修委員会企画検討委員会規程
原案通り承認された。委員の選出は、認定「応用心理士」認定審査委員会メンバーから、互選によって選出することとなった。
2. 退会措置者について
事務局長より、会費の長期滞納者、住所不明者のリストが提出され、リスト中12名について退会を承認、4名については所在を再確認し、退会の意志を確認の上退会手続きをとることになった。
3. 新入会員審査
正会員2名の入会を承認、1名の入会を不承認。学生会員1名の入会を承認。

1998年度第7回 常任運営委員会

日 時：1999年3月26日（金）17:00～19:30

場 所：富士短期大学 高田記念図書館第2会議室

出席者：稲毛・坂野・浮谷・大久保・荻野・岡村・
神作・越河・田中（富）・長塚・中村・馬
場・林・福原
事務局（神田・岩田・藤瀬）

報告事項：

1. 1999年度（第66回）大会について（稲毛大会
準備委員長）
 - 1) 1号通信を2月8日に発送した。
 - 2) 公開講演の演者を検討中。
 2. 機関誌編集委員会より（越河）
 - 1) 審査中論文3編。このほか投稿論文3編（査読者を選定中）。
 - 2) 機関誌に「総説」を設け、執筆を依頼。
 - 3) 会員外の査読者に対する謝礼、1編3,000円としたい。
 3. 認定「応用心理士」事務局（岡村）
 - 1) 本学会役員に対する特別受付に対し、21人から申し込みがあり、この結果、本年度は合計27名を認定することとなった。3月31日に認定証とカードを発送する。
 - 2) 次の受付期間4月1日～5月31日。
申請書類の簡略化を検討する。
 4. 諸学会間連絡会報告（稲毛）
3月5日に本年度最後の会合が開かれ、あと1年間は少なくとも続けることとなった。次の幹事学会は交通心理学会。来年度第1回会合は6月4日。
- 審議事項：
1. 新委員会の設置について
 - 1) 日本応用心理学会研修委員会企画検討委員会規程修正案について
第3条のうち「本委員会は常置委員会ではなく」を削除し、原案通り承認。
 - 2) シンポジウム委員会規程修正案について
以下の点を修正の上、承認。
 - ① 第4条の「シンポジウム委員会の事業は次の通りとする」を「シンポジウム委員会は次の事項について検討する」に改める。
 - ② 第4条 第1項第1号 から「これらは、本学会大会における本学会主催のシンポジウム、学会公開シンポジウムを含む」を削除。
 - ③ 第4条 第1項第3号の「必要な事業」を「必要な事項」に改め、さらに「大会開催校の要請に応じて必要な事項」をこれに追加。
 - 3) 日本応用心理学会国際交流委員会規程案について以下の点を修正の上、承認。
 - ① 第2条 第3項と第4項を統合し、「委員長は、第1項の条件に該当する常任運営委員より委員を指名する。ただし必要に応じて常任運営委員会の承認を得て運営委員会より委員を指名することができる。」とする。
 - ② ①に伴い第4項を第3項に、第5項を第4項とする。
 - 4) 広報委員会規程案について
以下の点を修正の上、承認。
 - ① 第2条 第3項と第4項を統合し、「委員長は、第1項の条件に該当する常任運営委員より委員を指名する。ただし必要に応じて常任運営委員会の承認を得て運営委員より委員を指名することができる。」とする。
 - ② ①に伴い第4項を第3項に、第5項を第4項とする。
 - 5) 日本応用心理学会認定「応用心理士」認定審

査委員会規程の委員長の選出方法を、他の委員会規程にあわせ、委員長は「本学会常任運営委員会で選出する。」に改訂することになった。

2. 認定「応用心理士」認定番号の会員名簿への記載について

岡村「応用心理士」事務局長より、周知、確認のため、認定番号を会員名簿の次回発行分から記載することが提案され、承認された。

3. 機関誌への広告の掲載について

事務局長より、「学会誌」に関わる出費等、学会経費支出が増加しているので、機関誌に広告を載せることが提案され、承認された。

4. 学協会著作権協議会との契約について

承認。これに伴い、「応用心理学研究」に、掲載論文の著作権が本学会に帰属する旨の1条を本

年中に、投稿規程に盛り込む必要が生じる。この点に関しては機関誌編集委員会に一任し、投稿規程の改訂を進めることとなった。

5. 諸学会間連絡会委員の選出

3月で稲毛委員の任期が満了となるため、後任を選出する必要があるが、更に1年の任期の延長が求められ、承諾された。

6. 新入会員審査

1) 正会員28名の入会を承認。

2) 学生会員から正会員への3名の変更を承認。

(付記)

応用心理学研究第25号の発行が遅れたため、今回記載した事務局便りは1998年度に関するものです。1999年度関係については、第26号に掲載する予定です。